

大学名：信州大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	実施した：新規に加盟を希望する学校に対して、オンラインでの打ち合わせを実施した。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	実施した：チャレンジ期間実施校に対して、対面ヒアリングを伴う活動内容確認シート作成支援や、教職員を対象とした ESD/SDGs 研修などの支援を実施した。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	実施した：ユネスコスクールを対象に、教職員を対象とした ESD/SDGs 研修や、ESD/SDGs 実践などの支援を実施した。その結果、複数の支援対象校が、長野県が主催する「信州 SDGs アワード 2021」を受賞したほか、教職員がユネスコ活動で文部科学大臣優秀教職員表彰対象となるなど外部からの評価も得られた。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	できた：ユネスコスクールにおける ESD/SDGs 実践の支援として、山ノ内南小学校の信州大学アクア・イノベーション拠点での校外学習や、複数の学校の志賀高原ユネスコエコパークでの高原学習をコーディネートした。また求めに応じて、ユネスコスクール等にゲストティーチャーを派遣した。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	できた：ユネスコスクールで実施する教職員を対象とした ESD/SDGs 研修では、可能な範囲で、他校の教職員や教員を目指す学生、地域の関係者なども、対面もしくはオンラインで参加できるよう働きかけ、単なる校内研修にとどまることなく普及・推進の機会となるよう努めた。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	できた：教育学部附属志賀施設が、世界環境デーなどにあわせて、ユネスコやユネスコエコパーク制度について学ぶオンライン授業を開発・実施した。これは志賀高原ユネスコエコパークでの課題への対応として、管内ユネスコスクールとともに企画したものだが、後に他のユネスコエコパークの学校も加わり、7校 160名が参加した。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	できた：県・市町村教育委員会などが主催する研修会において、ユネスコスクールや ESD/SDGs についての講演を行った。また複数のユネスコスクールが、長野県が主催する「信州 SDGs アワード 2021」を受賞した。

	<p>2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。</p>	<p>できた：ユネスコスクールにおける ESD/SDGs 実践の支援として、信州大学アクア・イノベーション拠点での山ノ内南小学校の校外学習をコーディネートした。また複数の学校の志賀高原ユネスコエコパークでの高原学習では、学校のニーズに応じて外部団体と連携した体験活動をコーディネートした。</p>
	<p>3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>できた：県・市町村教育委員会などが主催する研修会において、ユネスコスクールや ESD/SDGs についての講演を行った。またコンソーシアムの ESD/SDGs 研修や教職員を対象とした ESD/SDGs 研修では、複数の大学・ESD コンソーシアムと相互に講師派遣などの協力を実施した。</p>
<p>国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。</p>	<p>1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p>	<p>できた：2 月に開催した「2021 年度信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会」には、長野県内のみならず、只見ユネスコエコパーク（福島県只見町）から屋久島・ロ永良部島ユネスコエコパーク（鹿児島県屋久島町）まで、全国各地のユネスコエコパークで ESD/SDGs を実践するユネスコスクールがオンラインで参加し、日頃の学習成果を発表するとともに、交流を通じて学びを深めた。またその発表の様子を、教職員の実践記録とあわせて閲覧できるホームページを作成し（https://esd-nagano.org/conference2022/）、教育関係者やユネスコエコパーク関係者に対して発信した。</p>
	<p>2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p>	<p>できた：2 月に開催した「2021 年度信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会」には、長野県内のみならず、只見ユネスコエコパーク（福島県只見町）から屋久島・ロ永良部島ユネスコエコパーク（鹿児島県屋久島町）まで、全国各地のユネスコエコパークで ESD/SDGs を実践するユネスコスクールがオンラインで参加し、日頃の学習成果を発表するとともに、交流を通じて学びを深めた。またその発表の様子を、教職員の実践記録とあわせて閲覧できるホームページを作成し（https://esd-nagano.org/conference2022/）、教育関係者やユネスコエコパーク関係者に対して発信した。</p>
	<p>3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）</p>	<p>できなかった：コロナ禍の影響で、関連する取り組みは実施できなかった。</p>
<p>その他の活動</p>	<p>1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>できた：学内競争的研究資金を活用し、ユネスコスクールでの教職員を対象とした ESD/SDGs 研修や「2021 年度信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会」を活用した学部・大学院講義を開発し、教員養成に活用した。</p>
	<p>2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。</p>	<p>できた：学内競争的研究資金を活用し、ユネスコスクールでの教職員を対象とした ESD/SDGs 研修や「2021 年度信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会」を活用した学部・大学院講義を開発し、教員養成に活用した。</p>

	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	できた：他の ASPUnivNet 参加大学と協働して、ASPUnivNet 共同研究プロジェクトを開始した。
	4. 自由記述	